

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	J R Soc Interface doi:10.1098/rsif.200 7.0216 Published online	血液由来のvCJDの流行の大きさを察するために感度分析 を行い、公衆衛生的介入の有効性について調査した。数 学的モデルを開発し、悲観的モデリング仮定で評価する と、自己持続的流行が起こるならば2080年までに900例 以内、楽観的仮定では250例以内となった。大規模な又 は自己持続性流行に至るシナリオの可能性はあるが寧 ろ現性は低く、輸血を受けたヒトからのドネーション禁止措 置等の公衆衛生的介入が有効である。
												クロストリジウ ム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月22日 読売新聞)	千葉県船橋市立医療センターは22日、同県内の50歳 代の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫菌」に 感染し、死亡したことを明らかにした。人への感染が報告 されたのは世界初である。気腫菌は傷口などから動物 の体内に入り、筋肉が壊死する「気腫症」を発症させる。 同センターは、「気腫菌」は人への感染しないというのが これまでの常識だった。詳しい感染経路を調べるのが今 後の課題」としている。
												鳥インフルエン ザ	Transfusion 2007; 47: 452-459	血漿製剤の製造中に通常使われるウイルス不活性化処 理、即ち、ヒトアルブミンに対するパスツール法、静注用 免疫グロブリン(VIG)に対するSD処理、第VIII因子インヒ ビターバイパス活性に対する蒸気加熱、及びVIGに対す る低pHインキュベーションが、H5N1インフルエンザウイル ス不活化に有効かを再集合体株を使って調べた。その結 果、H5N1インフルエンザウイルスは、エンペローブウイル スと同様の挙動を示し、これらのウイルス不活性化処理に よって効果的に不活化された。
												レンサ球菌感 染	ProMED- mail20070223.0668	米国の科学者は北アメリカで初めて報告された Streptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。健康 であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。S. suisはブタで重病を起こすグラム 陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要であ る。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないと している。